

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 1 月 31 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200079		
法人名	社会福祉法人みどり会		
事業所名	グループホーム府中みどり園		
所在地	〒735-0013 広島県安芸郡府中町浜田1丁目6番7号 (電話) 082-281-6700		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3493200079&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年1月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開設当初から考えて来たのは、「自分が生活したい場所として思えるよう」という理念にあるように、自分が生活するとしたらどのようにしていけばよいかということで、生活環境（鍵をかけない、食器は陶器で、スタッフは制服ではなく）や、それぞれの時間を大切にしたい関わりを心がけて来た。同じ法人内に特養があり、その4階部分がグループホームということで、本来のグループホームらしさは多少ないのかもしれないが、そこは、町の中にあるグループホームとしての立地を生かして、外出は出来るだけ、個別に出来るように心がけている。スタッフが入居者の方の時間で動き、生活の主人公は入居者の方であるということをいつも念頭に置くようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム府中みどり園（以下、ホーム）は、地域密着型介護老人福祉施設に併設されたホームです。府中町に根ざしたホームとなるよう、併設施設と協働して、入居者が安心して暮らし続けることのできる地域、町づくりをめざし、地域交流を活発に行っておられます。法人の理念、基本方針を随所に活かし、入居者を中心に据えた支援をされています。併設施設に、青森ひばを使用した浴槽が設置され、ホームの入居者も利用されています。青森ひばの木の香りが浴室全体に漂い、ゆっくり、ゆったり、くつろげる生活の場の一つとなっています。法人内で、お風呂委員会を設置し、活動の一つとして「お風呂新聞」を発行されています。「自分の生活したい場所にしていこう」ために、「家庭と同じように普通の浴槽で入浴する」という方針を実践に繋げるため、勉強会で技術の習得に取り組まれています。県外研修にも出かけて、職員のモチベーションを高め、意識統一を図っておられます。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 【えんどう豆】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自分が生活したい場所として思えるよう」という理念のもと、地域にも開放し、ご家族も遅くまで沢山、面会に来られている。日々の生活支援の中で、理念を振り返る機会は委員会を通してなど多くもっている。	法人理念をもとに「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を基本方針に掲げられています。基本方針の言葉が持つ意味を職員全員で考え、常に自分自身に問いかけると共に、日々のケアに照らし合わせ、振り返りながら実践につなげておられます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	災害防災協定を町内会と締結している。また、広報を発行し、地域の方々にも配布している。社協が行っているサロンにもGH入居者は毎月参加している。夏祭りなども地域の方々に呼びかけたり、地域との関わりは深い。	入居者と一緒に挨拶運動に参加し、登校時の児童への声かけを行うなど、地域活動に積極的に参加されています。また、法人行事に、地域住民の参加を呼びかけたり、敬老会で近隣の保育園児と交流したり、頻繁に地域との関わりを持ち、関係を深めておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	そら豆ユニットGH入居者と代表者が毎朝、通学の子どもたちに「挨拶運動」を地域の方々と一緒にやっている。それ以外に広報紙の配布をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に家族、入居者に参加してもらい、意見をお聴きしている。そこで話された内容を運営に生かしている。	会議は2か月ごとに開催され、町内会長、民生委員、町担当者、入居者、家族等の参加が得られています。運営状況の報告を行い、質問や意見、要望などを受けておられます。ホームの行事について報告したり、地域の行事の情報を収集したり、情報交換、共有の場として活用されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に役場の担当者に参加いただいている。今年は町の実地指導もあり、取組みを伝えたり、意見をお聴きしたりした。	町の公募がきっかけで開設された経緯もあり、行政とは良好な関係が築かれています。「府中町に根ざした施設、地域の人が入りやすい施設にしてほしい」との思いを受け、地域全体の福祉サービスの向上に積極的に取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>代表者、管理者、リーダーは理解している。スタッフにも周知している。そのような行為がみられるような時には、すぐに話し合い、改善してきた。</p>	<p>「鍵に介護をさせない」というモットーで、玄関の施錠はせず開放されています。身体拘束について、職員全員の意識統一を図り、その都度、確認を行い、抑圧感のない自由な暮らしを支援されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待についての勉強会はもってきたが、精神的な虐待にあたる、言葉づかいなどは、日ごろから、再々、伝え続けている。開設してから半年が過ぎて、慣れ合いな関係になってきている。外部研修でもリーダーは受講している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度については、勉強会の中で、近々行う予定がある。ホームの中でも成年後見制度を利用されようとしている方もえんどう豆ユニットにおられる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については、入居時に説明をしっかりと行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会はないが、運営推進会議や面会にご家族が来られる時には、何でも言い合える関係になるように話をしている。ご家族の面会がとても多いので、その都度お話を聴くようにしている。フロアに意見箱も置いている。</p>	<p>家族が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、出された意見や要望は職員間で共有、検討し、日々のケアや運営に反映させています。家族の来訪が多く、直接意見を聞かれています。遠方でなかなか来訪できない家族に対しても電話等で近況を報告し、要望や意見を聞いておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ面接を不定期ではあるが、行っている。また、ミーティングなどがあり、その都度話を聴くようにしている。	毎月のミーティングや個人面談で、職員の意見、要望、悩みなどを聞かれています。職員の意見を把握するため「お茶会」を企画し、意見が言いやすい雰囲気となるよう工夫するなど、職員の声に耳を傾ける努力をされています。また、法人内の他事業所の職員と交流し、情報共有することで、職員の意見をさらに引き出せるよう、法人全体で取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	開設してから8カ月なので、まだあまり人事異動などはないが、スタッフの待遇についての話し合いは、管理者、代表者で話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人スタッフには新人研修を1か月ほど時間をかけて行い、またそれ以外にスタッフについても勉強会を1か月に数回行っている。介護技術勉強会、お風呂勉強会など。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町のケアマネの事業者の交流会には参加している。同業者との交流の機会はまだまだ少ない。ただし、一部事業所との交流はある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始に関しては、ご本人との面談、ご家族との面談の中で、今後の生活についての要望などをお聴きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族についても面談を行い、希望、要望をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に暫定プランを作成している。まず、不安に思われていること、必要だと思うことを面談時にお聞きして、グループホームのケアに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	挨拶運動や、洗濯ものたたみ、食事作りなどご本人の出来る範囲のことを一緒にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会がとても多いので、ご家族が来られている時の時間をスタッフも大事にしつつ、それらの時間を含めて、入居者の方の生活ととらえて、ご家族との関係も深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の入居する前の友人、地域との関係も大切にしている。ただし、ご家族の意向があり、出来ない入居者の方もおられる。	入居前に必ず自宅を訪問されています。これまでの生活の様子などを丁寧に聞き取り、これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、それらが継続できるよう支援されています。友人がホームに遊びに来たり、入居者が出向いたりすることがあります。また、入居者の行きつけの美容院や、故郷への日帰り旅行に職員が同行するなど、本人の意向やこれまでの関係をとても大切にしておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々、いろいろな関わりがあり、トラブルのあることもあるが、しっかりと支え支援するように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで1人だけそのような方がおられた。同じ法人内の特養に移られたが、情報について伝え合い、必要に応じて、介護方法について話をしてきた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人と話をしてどのようなことがしたいのか、どんなことを望まれているのか把握するように努めている。	日々の関わりの中で、常に入居者の声に耳を傾け、思いの把握に努められています。思いを伝えることが難しい場合も入居前の面接シートを細かく見直し、行きたい場所や会いたい人、してみたいことなどを検討しながら、入居者一人ひとりの思いの実現に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活については、面接時に以前住んでおられた自宅を写真で残し、スタッフが共有するようにしている。（個人情報について了承を得て）生活歴などの把握もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各入居者の方の担当者を決めて、責任をもって把握に努めるようにし、毎日の記録を共有し、皆で把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画については担当スタッフと計画作成担当者が話し合い、作成し、ご家族、ご本人に聴いている。ユニットミーティングは月に1回開催している。</p>	<p>入居者、家族の思いや意見を聞いて、6か月ごとにモニタリングを行い、現状に即した計画を作成されています。担当職員と計画作成担当者が中心に介護計画を作成されていますが、スタッフミーティングで他職員の意見も取り入れられています。計画変更時は、再度、本人と家族の確認と同意を得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護計画は定期的に見直しをしている。日々の状況変化などを検討しながら、介護計画に加えている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>同じ事業所内にある特養やデイに遊びに行ったり、それぞれの希望をお聴きしながら外出をしたりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>社協サロンに月に1回お連れしている。民生委員の方の訪問があったり、ボランティアが来られたりもしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>みどり園に週に1回、往診に来られる先生に診てもらいながら、ご自身それぞれのかかりつけ医にも受診されている。</p>	<p>ホームの協力医や併設事業所の看護師と連携し、入居者の健康管理に努められています。家族が同行し、入居前からのかかりつけ医で受診する場合は、看護師がホームでの状況報告書を作成したり、家族から情報収集した内容を診療日誌に記載したりして、情報共有されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日のようにスタッフから気付いたことは看護師に報告している。受診時には看護師からの状況報告書などをご家族に持参してもらい、受診している。11月よりGH専属の看護師が働いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された方については、定期的にご家族に連絡したり、病院に面会に行ったりして、状況把握に努め、早く退院できるように対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ターミナル期を迎えている入居者の方がおられる。ユニットミーティングで方針を検討している。どちらのユニットについても指針を用いて、入居時に説明している。</p>	<p>重度化した場合の対応に関する指針を作成し、家族に説明されています。ターミナル期の入居者には、「どのように過ごしてもらいたいか」「どのように関わっていきたいか」などの思いを職員間で共有し、ホームで可能な限り支援することをめざしておられます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応については入社時に新人スタッフ研修の中で行うとともに、グループホーム勉強会でも行った。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を定期的に行っていることと、防災協定を地域と締結している。</p>	<p>地域と災害防災協定を交し、消防署立ち会いのもと、地域住民の参加、協力を得て避難訓練を実施されています。また、ホーム独自の避難訓練を定期的に行い、夜間を想定したり、入居者に参加してもらったり、いざという場合に適切な対応ができるよう取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉づかいについては、再々、ミーティング、申し送りの中などで伝え合いをしている。完全にではないが、徹底するように努めている。	接遇研修を実施し、理念、基本方針を軸に意識統一を図る努力を積み重ねておられます。言葉づかいや会話時の目線、立ち位置など、日々のケアの中で、その都度振り返り、職員間で徹底するよう努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いが言えるような関係づくりをスタッフにはお願いしている。思いをご自分で表現しにくい方については、こちらがご本人の立場で考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の様子については、入居者の方の思いを優先するように努めているが、時にはスタッフ側の都合になってしまうこともあり、そのような時には入居者の方に説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみ、おしゃれについては、その人それぞれの今まで着てこられた洋服や、ご家族が着てほしいと思うものを着られるように配慮している。身だしなみについても気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	スタッフによってばらつきがある。手伝ってもらうことの意味を本当の意味での手伝いだけであると考え、「自分だけで作った方が楽」と考えるスタッフも中にはいる。入居者の立場に立った手伝いの意味に思いが至らない場合もある。	材料を確認し、その日の献立を決めて、三食ともホームで作られています。準備や後片付けなど、入居者の「できること」を活かし、手伝ってもらえるよう取り組まれています。陶器の食器を使用したり、盛り付けを工夫したり、家庭と同じような環境で食事ができるよう配慮されています。入居者と職員と一緒にテーブルを囲み入居者のペースに合わせて、ゆっくり食事を楽しんでおられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>飲み物の量については、なかなか飲んで頂くことが徹底できていない。飲みたい時に飲めるよう、スタッフ教育がさらに必要と思われる。食べ物については刻み食、ミキサー食で対応している方もおられる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後ではなく、その人その人の生活されてきた習慣をもとに、口腔ケアを行っている。毎食行っている方は、ご自分で歯磨きが出来ない方についてのみ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>生活状況記録に記入し、一人ひとりのパターンをつかむことを徹底することを常々話している。トイレで排泄してもらえよう努めている。</p>	<p>身体機能に応じた使い方ができるよう，手すりや便座の配置を考慮するなど，トイレ内のレイアウトや飾り付けにも気配りされ、トイレでの排泄を大切にされていることが伺えました。一人ひとりに対して，きめ細かく生活リズムに添った排泄支援が行われています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘の予防を考えて食物繊維の多いものをとってもらおうような工夫はしている。ただし、定期的に薬を飲んでおられる方もいる。散歩などして、運動をするよう心がけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お風呂はグループホームの入居者の方であっても2階、3階のお風呂を利用させてもらうこともあり、ご本人の状態によって対応している。出来るだけ、入りたい時に入れるように対応している。</p>	<p>入居者の不安や恐怖心，羞恥心を職員全員が理解し，入浴を楽しんでもらうことを徹底されています。併設事業所に，青森ひばを使用した浴槽が設置され，ホームの入居者も利用されています。「お風呂新聞」を発行したり，職員の勉強会を開催したり，他県の研修参加や講師を招くなど，法人全体で入浴支援に力を入れておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律に同じ時間に居室にお連れするのではなく、それぞれに安心して気持ちよく眠れるよう、起きていたい時には、ゆっくりと話を聴けるように支援している。日中は椅子で眠られる方がいれば、居室にお連れするなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲んでいる薬の把握は、スタッフがしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事づくり洗濯ものたたみなど、役割をもってもらっているが、個人の楽しみごとはまだしっかりと見つけ切れていない状況。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ外出する機会を多くもちたいと考えているが、まだまだ一人ひとりにあつた外出が出来切れているとはいえない。ご家族の協力支援があつて、有難い。	忘年会を文化交流館、新年会をリーガロイヤルホテルで行い、入居者、家族、職員が参加されています。日常的に家族の来訪があり、地域住民との交流も活発に行われていますが、ショッピングセンターでコーヒーを飲んだり、海へドライブに行ったり、故郷に日帰り旅行をしたり、入居者の希望に応じた外出が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金については少ない額、ご自分で持たれている方がおられるが、それ以外は事務所で管理し、外出の時に持って行ってもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話についてはかけたいと言われた時に、かけるお手伝いをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身の居室については居心地の良い空間を作っているが、リビングなどについては決して広い空間ではなく、居心地がとて良いかどうかというと、十分ではない。	ホームは、新築4階建ての建物の4階にあり、日当たりが良く、ベランダに出て外を眺めることができ、開放感があります。フロアの飾りつけは、家族からの意見も取り入れ、自宅を感じることでできるようシンプルにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置いたり、畳ベッドを置いたり、椅子を廊下に置いたりなど試みているが、広さに制限があるので、十分ではない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室については、使い慣れたものを出るだけ多く持ち込んでもらっている。本人の居心地の良い空間づくりをご家族とご本人でされることをお手伝いしている。	使い慣れた品物が持ち込まれており、居心地の良い居室となっています。自宅にかけていた表札を居室のドアにかけたり、冷蔵庫を置いたり、こだわりのある居室づくりをされています。また、自宅訪問時に、馴染みの品、風景を写真に撮り、部屋づくりに活かされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	エレベーターにご自分でのってもらったり、ベランダに出てもらったり、自分で出来ることを自分でしてもらえようお手伝いをしている。		

V アウトカム項目 【えんどう豆】			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 【そら豆】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自分が生活したい場所として思えるよう」という理念のもと、地域にも開放し、ご家族も遅くまで沢山、面会に来られている。日々の生活支援の中で、理念を振り返る機会は委員会を通してなど多くもっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	災害防災協定を町内会と締結している。また、広報を発行し、地域の方々にも配布している。社協が行っているサロンにもGH入居者は毎月参加している。夏祭りなども地域の方々に呼びかけたり、地域との関わりは深い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	GH入居者と代表者が毎朝、通学の子もたちに「挨拶運動」を地域の方々と一緒に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に家族、入居者に参加してもらい、意見をお聴きしている。そこで話された内容を運営に生かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に役場の担当者に参加いただいている。今年は町の実地指導もあり、取組みを伝えたり、意見をお聴きしたりした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>代表者、管理者、リーダーは理解している。スタッフにも周知している。そのような行為がみられるような時には、すぐに話し合い、改善してきた。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待についての勉強会はもってきたが、精神的な虐待にあたる、言葉づかいなどは、日ごろから、再々、伝え続けている。開設してから半年が過ぎて、慣れ合いな関係になってきている。外部研修でもリーダーは受講している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度については、勉強会の中で、近々行う予定がある。ホームの中でも成年後見制度を利用されようとしている方もおられる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については、入居時に説明をしっかりと行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会はないが、運営推進会議や面会にご家族が来られる時には、何でも言い合える関係になるように話をしている。ご家族の面会がとても多いので、その都度お話を聴くようにしている。フロアに意見箱も置いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ面接を不定期ではあるが、行っている。また、ミーティングなどがあり、その都度話しを聴くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	開設してから8カ月なので、まだまだあまり人事異動などはないが、スタッフの待遇についての話し合いは、管理者、代表者で話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人スタッフには新人研修を1か月ほど時間をかけて行い、またそれ以外にスタッフについても勉強会を1か月に数回行っている。介護技術勉強会、お風呂勉強会など。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町のケアマネの事業者の交流会には参加している。同業者との交流の機会はまだまだ少ない。ただし、一部事業所との交流はある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始に関しては、ご本人との面談、ご家族との面談の中で、今後の生活についての要望などをお聴きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族についても面談を行い、希望、要望をお聴きしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居時に暫定プランを作成している。まず、不安に思われていること、必要だと思うことを面談時にお聞きして、グループホームのケアに生かしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>挨拶運動や、洗濯ものたたみ、食事作りなどご本人の出来る範囲のことを一緒にしていただいている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の面会がとても多いので、ご家族が来られている時の時間をスタッフも大事にしつつ、それらの時間を含めて、入居者の方の生活ととらえて、ご家族との関係も深めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人の入居する前の友人、地域との関係も大切にしている。入居前に行かれていた美容室にお連れするなどしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居されている方同士がそれぞれを支えているような場面があり、そのような関係性については大事に育むようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで1人だけそのような方がおられた。もうひとつのユニットで。同じ法人内の特養に移られたが、情報について伝え合い、必要に応じて、介護方法について話をしてきた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人と話をしてどのようなことがしたいのか、どんなことを望まれているのか把握するように努めている。野球好きな方の野球観戦、海が見たい方へドライブ、映画が見たい方と映画へ。生まれた場所へ行きたい方と生まれた場所へ。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活については、面接時に以前住んでおられた自宅を写真で残し、スタッフが共有するようにしている。(個人情報について了承を得て)生活歴などの把握もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現在の状況についてはご本人の日々の状況をみながら、アセスメントなどをして把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画については担当スタッフと計画作成担当者が話し合い、作成し、ご家族、ご本人に聴いている。ユニットミーティングは月に1回開催している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護計画は定期的に見直しをしている。日々の状況変化などを検討しながら、介護計画に加えている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>同じ事業所内にある特養やデイに遊びに行ったり、それぞれの希望をお聴きしながら外出をしたりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>社協サロンに月に1回お連れしている。民生委員の方の訪問があったり、ボランティアが来られたりもしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>みどり園に週に1回、往診に来られる先生に診てもらいながら、ご自身それぞれのかかりつけ医にも受診されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日のようにスタッフから気付いたことは看護師に報告している。受診時には看護師からの状況報告書などをご家族に持参してもらい、受診している。11月よりGH専属の看護師が働いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された方については、定期的にご家族に連絡したり、病院に面会に行ったりして、状況把握に努め、早く退院できるように対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ターミナル期を迎えている入居者の方がもうひとつのユニットにおられる。どちらのユニットについても指針を用いて、入居時に説明している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応については入社時に新人スタッフ研修の中で行うとともに、グループホーム勉強会でも行った。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を定期的に行っていることと、防災協定を地域と締結している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉づかいについては、再々、ミーティング、申し送りの中などで伝え合いをしている。完全にではないが、徹底するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いが言えるような関係づくりをスタッフにはお願いしている。思いをご自分で表現しにくい方については、こちらがご本人の立場で考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の様子については、入居者の方の思いを優先するように努めている。起床時間、就寝時間もその方にあわせるようにつとめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみ、おしゃれについては、その人それぞれの今まで着てこられた洋服や、ご家族が着てほしいと思うものを着られるように配慮している。身だしなみについても気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	スタッフによってばらつきがある。手伝ってもらふことの意味を本当の意味での手伝いだけであると考え、「自分だけで作った方が楽」と考えるスタッフも中にはいる。入居者の立場に立った手伝いの意味に思いが至らない場合もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>飲み物の量については、なかなか飲んで頂くことが徹底できていない。飲みたい時に飲めるよう、スタッフ教育がさらに必要と思われる。食べ物については刻み食で対応している方もおられる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後ではなく、その人その人の生活されてきた習慣をもとに、口腔ケアを行っている。毎食行っている方は、ご自分で歯磨きが出来ない方についてのみ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりのパターンをつかむことを徹底することを常々話している。トイレで排泄してもらえるよう努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘の予防を考えて食物繊維の多いものをとってもらうような工夫はしている。ただし、定期的に薬を飲んでおられる方もいる。散歩などもして、運動をするよう心がけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お風呂はグループホームの入居者の方であっても2階、3階のお風呂を利用させてもらうこともあり、ご本人の状態によって対応している。出来るだけ、入りたい時に入れるように対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律に同じ時間に居室にお連れするのではなく、それぞれに安心して気持ちよく眠れるよう、起きていたい時には、ゆっくりと話を聴けるように支援している。日中は椅子で眠られる方がいれば、居室にお連れするなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲んでいる薬の把握は、スタッフがしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事づくり洗濯ものたたみなど、役割をもってもらっているが、個人の楽しみごとはまだしっかりと見つけ切れていない状況。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ外出する機会を多くもちたいと考えているが、まだまだ一人ひとりにあつた外出が出来切れているとはいえない。今までは、海へのドライブ、ふるさと尾道への外出、映画を見る、宮島パーキングへのドライブなど。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金については少ない額、ご自分で持たれている方がおられるが、それ以外は事務所で管理し、外出の時に持って行ってもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話についてはかけたいと言われた時に、かけるお手伝いをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご自身の居室については居心地の良い空間を作っているが、リビングなどについては決して広い空間ではなく、居心地がとても良いかどうかというと、十分ではない。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを置いたり、畳ベッドを置いたり、椅子を廊下に置いたりなど試みているが、広さに制限があるので、十分ではない。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室については、使い慣れたものを出るだけ多く持ち込んでもらっている。本人の居心地の良い空間づくりをご家族とご本人でされることお手伝いしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>エレベーターにご自分でのってもらったり、ベランダに出てもらったり、自分で出来ることを自分でしてもらえようお手伝いしている。</p>		

V アウトカム項目 【そら豆】			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム府中みどり園

作成日 平成 24 年 2 月 4 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	事前の面接シートやケアプランがあっても、個別の方の思いや、したいことについての関わりがまだ出ていない。	まずはスタッフが、自分の担当入居者の方の思いや意向を把握する努力をする。	・定期的なスタッフ研修 ・ケアミーティングの徹底	平成24年を1年かけて行う。
2	14	言葉づかいがなかなか丁寧になりきれなかったり、慣れてきて雑な言葉づかいがある。	「ダメ」という言葉や子ども扱いした言葉をまずは使わないようにする。	・接遇研修（内部・外部） ・日々の中でのスタッフ教育	平成24年を1年かけて行う。
3	6	家族との関わりをもう少し増やしていきたい。	家族と、日々の関係をさらに綿密にしていきたい。	・グループホーム通信作成 ・家族との会を増やしていく	通信は2月より作成。 家族との会はこの1年をかけて。
4	7	外部評価で調査員から話があったように、スタッフと、リーダ管理者との思いにまだ距離がある。	スタッフがなるべく言いたいことが言える環境をつくっていききたい。	・“しゃべりbar”というミーティングでも勉強会でもないスタッフ交流の場づくり	平成24年1月～
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。